

## テーマ1 「生きる力をはぐくむ外国語（英語）教育の役割とは」

### ■代表グループのまとめ・プレゼン

“生きる力”とは？

=社会で生きている上で必要なスキル

“必要なスキル”とは？

#### ① 人とのコミュニケーション

- ・自分の意見を述べる
- ・人の意見を聞く
- ・マナー

(例) プレゼン、スピーチ、ディベート

#### ② 異文化理解

- ・それによって視野を広げたり、他人の価値観への理解を深める

(例) material を凝る (マナー、挨拶、ニュース)

#### ③ 目標設定とそれに向かうプロセス reflection

(例) 資格取得、スコアアップ、留学

### ■質疑・コメント

- ・②について。日本人学生には、発信能力があまりないような気がする。日本のことを知らなくて、文化のことを聞かれても答えられないことが多いと思う。外国を知ることにより日本文化を知るという意義がある。(中野)
- ・②について。他人の価値観への理解を深めることが大切なのは。(秋永)
- ・②に関連して。中学校教科書の登場人物が、自分が中学生の頃ぐらいから、母語として英語をしようとする国出身以外のキャラクターも登場するようになってきた。舞台となる国についても、イギリス、アメリカ以外にも、フランスや中国など、**English Speaking Country** でない国も扱われるようになってきた。(永田)
- ・テーマの「生きる力」というスキル。例えば、自転車に乗れたら、これだけのたくさんのことができるようになる、というのと同じように、「英語がこれだけできたら、これぐらいのことができる」「もう少しできたら、もっとこんなことができるようになる」ということを、子どもの心に響くように教師が提示し、生徒の動機づけ、気持ちを育てること。スキルよりも前に、気持ちの方が大切。(鄭)

■コメント

・加賀田先生

- ・「生きる力」＝自己教育力、自律的な学習者の育成（学習指導要領の定義）
- ・これから、人とのコミュニケーションが大切。そのためには、4つめのトピック協働学習。教師が、意図的・計画的・継続的に、人間づくりのための場を教育の中に設定していく。
- ・異なるものをありのままに受容することは可能だろうか？
- ・内なる異文化理解／外なる異文化理解
- ・「理解」というのは、ここでは、妥協点を設けること
- ・まず、知識理解 → 体験・体感（言語活動など） → 受け入れる

・吉田先生

- ・協調性
- ・持続力・忍耐力
- ・語学を続けていけば、できるようになるんだ。我慢できる子を育てること。

以上